

いきいき 行田人

直感を信じて撮った写真で

写真展入賞

持田 美奈さん (18歳・忍)

今月紹介するのは、進修館高等学校に通う持田美奈さん。同校写真部で活動していた持田さんは、部創設以来初となる写真展での入賞を果たした。元気が笑顔が印象的な女の子です。お父さんの一眼レフカメラを時々借りては、飼っている猫やウサギなどを撮影していた持田さんは、高校生になったら本格的に写真を撮りたいと、進路決定の際、写真部のある学校を選んだそうです。入部後、「一眼レフは重い」との理由から、軽さ重視のコンパクトカメラを購入。校内文化祭に出展した写真も「行田浮き城まつりにお隣子で出演している最中、持っていたカメラで撮影したんです」と話すように「直感を信じ、撮りたいものを撮りたいときに撮る」という撮影スタイルが入部当初から出来上がっていました。

2年生になると、部の活動目標が広がり、文化祭のほか、春・秋・冬の3回、県下の高



校生を対象とした写真展に出展するようになりました。顧問の先生から写真の撮影技術を学びながら、直感を意識した撮影を心掛けていた持田さんは、ある日、朝日を浴びて玄関に浮かび上がった猫のシルエットを発見すると、すぐに愛用のコンパクトカメラを取りに走り撮影。この写真が、なんと埼玉県高等学校写真連盟写真展で優良賞を受賞。部内の活動意欲が高まるきっかけを与えた持田さんは、翌年の埼玉県高等学校総合文化祭高校写真展でも、優良賞に輝きました。「作品タイトルを『明日に繋がる今日』に決め、いとこの結婚式を撮影しました。部での写真展締め切り期限を一日延ばしてもらい、切羽詰まった状況での撮影でしたが、納得のいく写真が撮れました」2年続けて入賞を手にするという部創設以来の快挙を、友達や先生などが自分のことのように喜んでくれて、高校生活を代表する思い出のひとつとなったようです。

現在、アニメなどの登場人物のキャラクターに扮するコスプレに興味を持ち、手作りの衣装を着てイベントに参加し、撮影するだけでなく、撮影される側の楽しさも満喫している持田さん。4月からは美容の専門学校へ進学するそうで「国家資格を取り、将来は服飾や美容の仕事に携わりたい。そこで写真の腕も生かすことができたら最高かな」限らない可能性を秘め、研ぎ澄まされた直感で輝ける未来に突き進みます。

持田さん。4月からは美容の専門学校へ進学するそうで「国家資格を取り、将来は服飾や美容の仕事に携わりたい。そこで写真の腕も生かすことができたら最高かな」限らない可能性を秘め、研ぎ澄まされた直感で輝ける未来に突き進みます。

私の作品

俳句

中央 藤野 芳江

山茶花のひとり彩る小さき庭

佐間 藤田 素仙

気負い無く頬寄せて咲く寒椿

須加 長島八重子

利根川を染めて輝く初菫

谷郷 富山 由喜

寒晴や秩父連山迫りおり

持田 田子 敏枝

子らがきて両手に孫を初詣

天満 青柳 欣吾

老いし猫吾同様に日向ぼこ

佐間 須永 節子

路地を行く靴音間に牙え返る

城西 榎原しずか

からっ風うわさ話に火をつけて

城南 町田ツギ子

花の香に心はつみし散歩かな

城南 関口 操

宝登山に老梅香ほる人の波

北河原 磯貝美智江

挨拶の声の華やぎ梅薫る

荒木 国島 初江

冬の朝元気な顔で登校す

須加 蓮 陽子

利根堤初富士仰ぎ心満つ

佐間 矢澤喜美江

庭先に思いきり咲く小菊かな

中里 鯨 美智子

食卓に春がきたれりつぼみ菜よ

(木島 斗川 監修)

『絵手紙』

鈴木 康子(若小玉)



◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。